



**sam**  
singaporeartmuseum  
CONTEMPORARY ART IN SOUTHEAST ASIA



Benesse  
Art Site  
Naoshima

2016年10月4日  
株式会社ベネッセホールディングス  
代表取締役社長 安達 保

**「ベネッセ賞」、シンガポール・ビエンナーレ 2016 においてアジア初の開催**  
シンガポール美術館、株式会社ベネッセホールディングス共催  
アジア圏のアーティストを対象に「第11回ベネッセ賞」授与

シンガポール美術館と株式会社ベネッセホールディングスは、アジアでは初の「ベネッセ賞」を開催いたします。「第11回ベネッセ賞」は、シンガポール・ビエンナーレ 2016 参加アーティストの中から、既成概念にとらわれず、実験・開拓精神に富み、企業理念「ベネッセ（よく生きる）」に沿った作品作りの可能性が期待されるアーティスト1名（1組）に授与されます。「ベネッセ賞」は第10回まで、ヴェネチア・ビエンナーレの参加アーティストに贈られてきましたが、今回、初めてアジア圏が舞台となります。受賞作家は株式会社ベネッセホールディングスより、ベネッセアートサイト直島での作品制作の機会と賞金300万円が授与されます。一次審査選抜者（ショートリスト）はシンガポール・ビエンナーレのオープニングで発表され、最終受賞者の発表と受賞式は「シンガポール・アート・ウィーク 2017」開催中に行われます。

「ベネッセ賞」は、1995年に開催されたヴェネチア・ビエンナーレにおいて、傑出したアーティストのアート活動を評価し、今後の活動を支援する目的で開始されました。「第1回ベネッセ賞」の受賞者は中国出身の著名なアーティスト・蔡國強で、ベネッセアートサイト直島において制作したサイト・スペシフィックな作品は恒久設置されることになりました。過去の受賞者としては、オラファー・エリアソン、ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー、リクリット・ティラヴァーニヤらが名を連ねています。ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラーの新作コミッション・ワーク「Dreaming Naoshima（ドリーミング・ナオシマ）」は2016年3月から、直島のベネッセハウス（ホテル）の一室で展示されています。「第10回ベネッセ賞」受賞者のアンリ・サラによる、海沿いの古い家屋でのサイト・スペシフィックなインスタレーション展示は今年10月8日に豊島で発表されます。

「第11回ベネッセ賞」は、シンガポール・ビエンナーレ 2016 に出展するすべてのアーティストを審査対象としています。この賞は、ベネッセアートサイト直島の活動の根底に流れる理念を深く掘り下げる可能性を感じさせる、アジアのアーティストを評価しようとするものです。つまり「在るものを活かし無いものをつくる」というベネッセアートサイト直島の中核となる考えに繋がり、地域の自然、歴史、文化と対話したり、現代の社会的なトレンドにとってかわるものを構想、あるいは、島々の記憶や物語を探ることによって地域のコミュニティ活性化に寄与する力を備えたアーティストです。

一次審査選抜者を選定する国際審査員は、シンガポール美術館とベネッセホールディングスにより指名された、以下の方々です。なお、1月に発表される最終受賞者の審査は、ベネッセホールディングス及び福武財団により行われます。

- ・ルッカーナ・クナーウィチャヤーノン バンコク芸術文化センター・ディレクター
- ・南條史生 森美術館館長
- ・三木あき子 ベネッセアートサイト直島 インターナショナル・アーティスティック・ディレクター、横浜トリエンナーレ 2017 コ・ディレクター
- ・スハーニャ・ラフェル M+（エム・プラス）館長
- ・スージー・リンガム博士 シンガポールビエンナーレ 2016 クリエイティブ・ディレクター

(五十音順)

「シンガポール・ビエンナーレ 2016」は第5回目をむかえ、ブラスバサー通りとクィーン通りにあるシンガポール美術館で行われます。開催場所は、シンガポール美術館、SAM at 8Q、シンガポールマネジメント大学内のデ・スアンティオ・ギャラリー、アジア文明博物館、シンガポール国立博物館、スタムフォード・グリーン、旧国会議事堂、プラナカン博物館です。会期は2016年10月27日から2017年2月26日です。ナショナル・アーツ・カウンシル（シンガポール）の委託によりシンガポール美術館が主催します。詳しい情報は以下担当者にご連絡ください。

シャーリーン・ノーディン (Shirlene Noordin)  
フィッシュ・コミュニケーションズ  
DID 電話番号: +65 6344 2953  
Eメール: [shirlene@phish-comms.com](mailto:shirlene@phish-comms.com)

リン・シム (Lynn Sim)  
シンガポール美術館  
DID 電話番号: +65 6697 9762  
Eメール: [lynn.sim@singaporeartmuseum.sg](mailto:lynn.sim@singaporeartmuseum.sg)

ベネッセアートサイト直島  
広報担当  
Eメール: [BASN-press@mail.benesse.co.jp](mailto:BASN-press@mail.benesse.co.jp)

### シンガポール・ビエンナーレについて

シンガポール・ビエンナーレは2006年、シンガポールにおいて、優れた現代アートの国際的なプラットフォームを築くために設置されました。シンガポール・ビエンナーレは、シンガポールのアーティストたちが世界に飛び立つ機会を与え、世界のアート・コミュニティとの精力的な活動を支援します。また、シンガポールのビジュアル・アート界のアーティスト、関係団体・企業に対し新たな機会を提供します。さらに、この4か月間の展示、アーティストとキュレーターのトークやツアー、学校訪問、ワークショップのような参加型の教育プログラムなど、一般の方々に現代ビジュアル・アートに触れる機会を創出します。こうした活動は、シンガポールのアートや文化以外の分野をも引き立てることとなり、生活、仕事、余暇のすべての面において魅力的な都市であることを国際的にアピールすることにもつながります。2006年、2008年のビエンナーレは、ナショナル・アーツ・カウンシルが主催しましたが、2011年、2013年、そして今回の2016年はナショナル・アーツ・カウンシルから委託されシンガポール美術館が主催します。詳しい情報は以下ウェブサイトをご覧ください。

[www.singaporeartmuseum.sg/SingaporeBiennale](http://www.singaporeartmuseum.sg/SingaporeBiennale)

### シンガポール美術館について

シンガポール美術館（SAM）はシンガポール、東南アジア、アジア地域におけるアート制作やアート構想に焦点を置き、世界的視野を持ち備えた現代アート美術館です。さまざまな分野の現代アートを支援するとともに、リサーチや新しい展示方法を通して、来館者に現代アートに親しんでもらいやすい工夫をしています。1996年1月の開館以来、アジアの最も重要な現代アート作品を収集しています。展示や一般向けプログラムを通し、シンガポールに刺激的でクリエイティブな場を作り、来館者一人ひとりの体験を深いものにする努力をしています。また、公共アート活動、教育事業、リサーチ、出版、分野を超えた交換プログラムなども行っています。

ロケーションはふたつあり、一つは1855年に建てられたセント・ヨセフ学校（ブラスバサー通り）の元校舎で、現在は国定史跡になっている建物です。もう一つは「SAM at 8Q」という、クイーン通りの向かいにある元カソリック高校校舎を保存した建物です。

2011年、シンガポール・ビエンナーレの開催場所として運営に携わり、2013年と2016年は主催者となりました。2013年11月13日に文化・社会・青年省に、公開有限責任保証会社として認可されました。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

[www.singaporeartmuseum.sg](http://www.singaporeartmuseum.sg)

### ナショナル・アーツ・カウンシルについて

ナショナル・アーツ・カウンシルはシンガポールにおけるアート全般を支援しています。優れたアート活動を支援し、様々な人々が幅広くアート活動に関与するよう促し、シンガポールを世界に名だたるアートの都市に発展させたいと考えています。伝統を重んじながらも将来を見据え、成熟したアーティストや活気ある会社を支援しています。助成金、パートナーシップ、関係性づくり、アート・ハウジング提供などアート活動に対する支援を幅広く行っています。また、一人ひとりがアートのある生活を過ごせるよう、アートにかかわる個人や企業とさらなる協力を進めたいと考えています。ミッションや企画など、詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

[www.nac.gov.sg](http://www.nac.gov.sg)

### ベネッセアートサイト直島について

ベネッセアートサイト直島は、直島、豊島、犬島の三つの島を舞台に、株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人福武財団が展開しているアート活動の総称です。

文化的、歴史的に豊かな美しい瀬戸内海の自然の中に現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことを目指しています。

アート作品や自然、瀬戸内の風景や地域の人々との触れ合いを通して、訪れてくださる方々がベネッセホールディングスの企業理念である「ベネッセ—よく生きる」とは何かについて考えるきっかけとなればと思っています。

そして、活動を継続することによって現代アートとそれを包括する場である地域がともに成長し続ける関係を築き、地域社会に貢献できることを望んでいます。

詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://benesse-artsite.jp/>

### ベネッセホールディングスについて

ベネッセグループは「Benesse=よく生きる」という企業理念のもと、教育、語学、生活、シニア・介護の分野で、お客さま一人ひとりの意欲向上と課題解決を、一生涯にわたって支援する企業グループです。グループ内には、幼児から高校生を対象にした日本最大の通信教育サービスである「進研ゼミ」「こどもチャレンジ」や学校事業などを行う「株式会社ベネッセコーポレーション」、高齢者向けホーム運営のリーディングカンパニーである「株式会社ベネッセスタイルケア」、世界最大の語学学校である「ベルリッツコーポレーション」を有しています。

### 「ベネッセ賞」について

「ベネッセ賞」は1995年、第46回ヴェネチア・ビエンナーレの一環として、国際交流基金と福武学術文化振興財団（2012年より公益財団法人福武財団）が共催し、株式会社ベネッセコーポレーションが支援した「トランスカルチャー」展に合わせて実施されました。ヴェネチアと直島は全く違う場所でありながらも、両者とも水に囲まれ、地元コミュニティと世界を結びながらビジュアル・アートを促進するという共通点があるため、この2つの場所を繋げるアイデアが生まれ、ヴェネチア・ビエンナーレでの「ベネッセ賞」が発足されました。

発足20年の節目を迎え、アジアへ拠点を移すことになりました。これは、ベネッセ事業も根付いているアジア地域内での連携を強化するとともに、今日の現代アート制作を取り巻く状況や環境の劇的な変化を反映したものです。

### 過去の受賞者

- 第1回（1995年） 蔡國強（中国）
- 第2回（1997年） アレキサンドロス・プシフーリス（ギリシャ）  
\* ヴェネチア・ビエンナーレと共催
- 第3回（1999年） オラファー・エリアソン（デンマーク）
- 第4回（2001年） ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー（カナダ）
- 第5回（2003年） リクリット・ティラヴァーニャ（タイ）
- 第6回（2005年） タシタ・ディーン（イギリス）
- 第7回（2007年） アデル・アブデスメッド（アルジェリア／フランス）
- 第8回（2009年） ハンス＝ペーター・フェルドマン（ドイツ）
- 第9回（2011年） アドリアン・ヴィジャール・ロハス（アルゼンチン）

第 10 回 (2013 年) アンリ・サラ (アルバニア、フランス)

※第 10 回までのベネッセ賞は第 46 回から第 55 回のヴェネチア・ビエンナーレで実施。

**福武總一郎 (ベネッセアートサイト直島代表、株式会社ベネッセホールディングス  
名誉顧問) からのメッセージ**

ベネッセアートサイト直島の構想と実現については、株式会社ベネッセホールディングスの経営の拡大と同様惜しみない努力を注いできました。

ベネッセアートサイト直島が展開されている瀬戸内地域は、日本で最初に国立公園として指定され、非常に美しい風景を集めた宝庫であるにもかかわらず、日本の近代化・工業化の負の遺産を強いられ、深刻な公害や人口減少などに悩まされてきました。しかし、変革をもたらす現代アートの力を使い、地域活性化と、シニアの島民に生きがいを与えるという先駆者的方法は、今や「Naoshima メソッド」として広く知られています。

私たちは、活動の初期の 1995 年より、これらのベネッセアートサイト直島が持つ意義の普遍性を信じ、ヴェネチア・ビエンナーレにおいて私たちの活動に通じる優れたアーティストに「ベネッセ賞」を授与することで、世界へ通ずるとともに、世界への発信の足掛かりとしてきました。この度、20 年をひとつの区切りとして、ヴェネチアからシンガポールへとベネッセ賞の舞台を変えることで、ベネッセアートサイト直島と世界、とりわけアジア各国との新しいつながりを産み出し、新たな発信を目指します。